

審査支払機能に関する改革工程表（案）

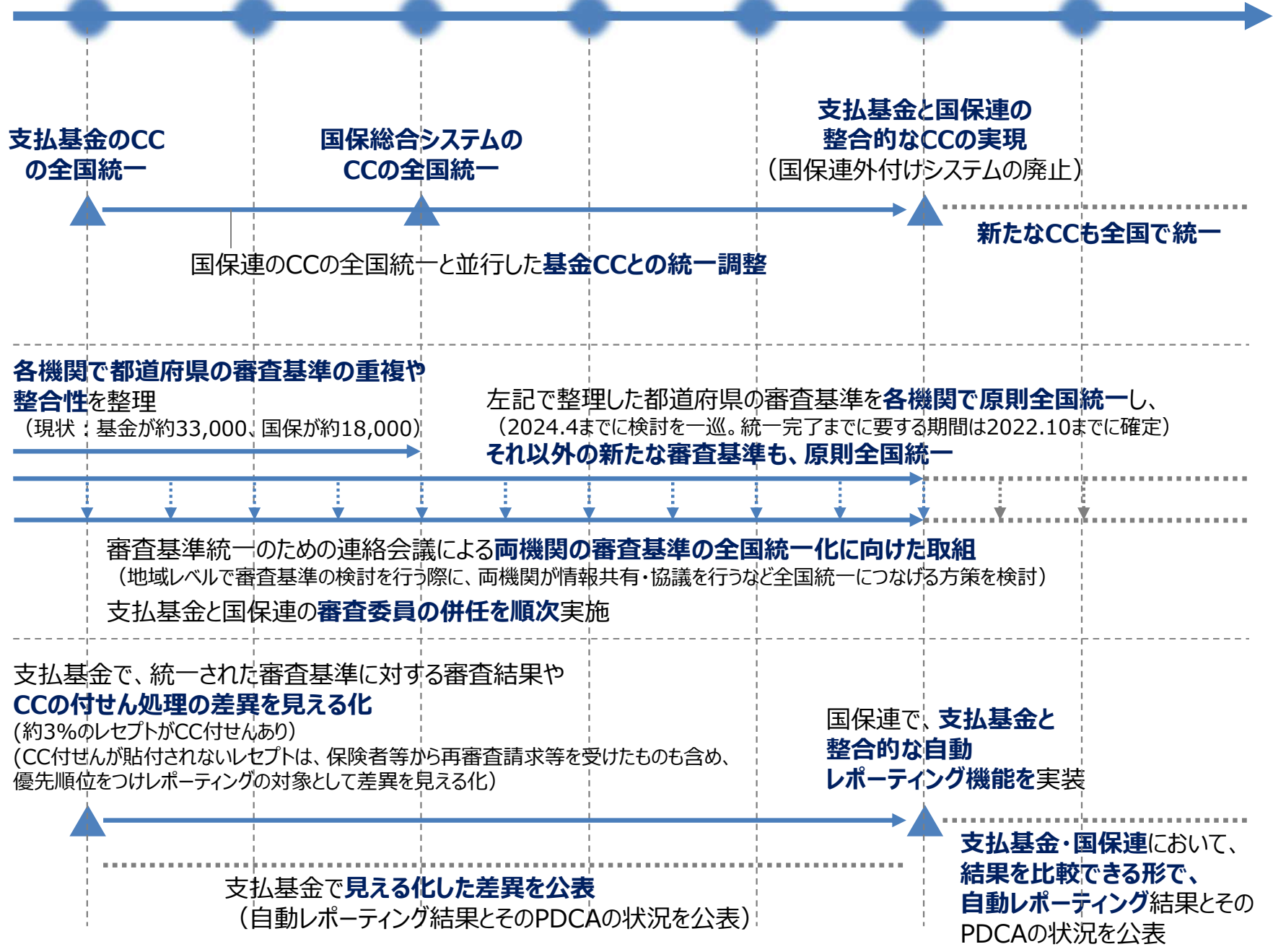
令和3年3月●日

審査支払機能の在り方に関する検討会

審査結果の不合理な差異の解消に向けた工程表

職員・審査委員へのフィードバック
コンピュータチェックの精緻化及び
事務点検・審査
自動レポート

2021.10 2022.4 2022.10 2023.4 2023.10 2024.4 2024.10



稼働時に実現を目指す内容

2021.4

2022.10

2024.4

2026.4

整合性の実現

- **受付領域の共同利用※1**
 - ー オンライン請求システム
 - ー 受付時点の形式チェック
 - ー 告示・通知に基づくチェック
- **審査領域の業務要件の整合性の確保**
 - ー 支払基金と整合的なコンピュータチェックルール
(外付けシステムによるコンピュータチェックの廃止)
 - ー 支払基金と整合的な自動レポート

国保総合システム更改の設計・開発・試験

※国保総合システム全体をクラウド化

体制

- ・国保中央会
- ・デジタル庁（仮称）との連携

審査領域の共同利用の開始
※5、※6、※7

効率性の実現

■ **審査・支払領域※2の共同利用**

可能な機能から医療機関等・保険者による利用のための機能開放を検討

■ **共同利用機能とその他の機能・システムの疎結合化※3**

共同開発の体制の構築※4

共同利用機能の共同開発

(デジタル庁（仮称）との連携)

- ①実証的な開発・再開
- ②段階的な機能導入

← インターフェース定義

← その他の機能・システムのインターフェース改修

※1 受付領域は、技術的な実現可能性を精査し、費用面も勘案しつつ、システム集約

※2 コンピュータチェックのロジックとマスタ、振分チェックのAIエンジン、自動レポート、基盤、ネットワーク、セキュリティ対策等

※3 「疎結合」とはコンピュータシステムで、異なる二つの構成要素の結びつきが弱い状態。各要素の独立性が高く、一方に障害が生じても他方に影響を与えることが少ない。疎結合化により、共同利用機能及びその他の機能・システムの柔軟なシステム運用・改修を可能とする。

※4 「重要な意思決定に関する基金・国保の意見調整の仕組み」と「支払基金と国保の実効的な合同実務部隊」を構築する

※5 審査領域は、技術的な実現可能性や一時的に生じる追加費用と共同化等による中長期的な費用の抑制効果の精査を行いつつ、2026年4月に共同利用開始を目指す。

※6 支払領域等の共同利用については、審査領域とは別に、デジタル庁（仮称）との連携の下、早急に費用対効果を含めた検証を行い結論を出す

※7 審査支払システムの基盤としてGov-Cloud（仮称）の利活用の可能性も検討する